

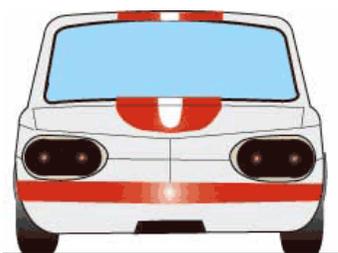
# 2017 Calendar

Proving Ground - 日野コンテッサ1300の実験場

## コンテッサ1300

コンテッサ、実に優雅な響き、それはイタリア語で“伯爵夫人”！  
走る実験場でもあるサーキットで性能の熟成が進められた！  
クルマは、“走ってこそ”、今でも飽くなき挑戦は続く！

(切り取られた自動車文化史 - 日野コンテッサ)



Created by HinoSamurai.org

The owner of HinoSamurai.org own the copyright of the content of this calendar.

2016年12月10日 Zummy Racing Family  
2016 ビギナーズジムカーナ in 筑波 フェスティバル



1968年3月23日 第10回日本スポーツカー富士3000キロレース大会  
ドライバー：山西喜三夫 事実上、これが日野としての最後のレース

2017.1.

江  
澤

Ver.2017.1

# January & February - 2017

	S	M	T	W	T	F	S
1	8	9	10	11	12	13	14
15	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					



1966年5月1日、米国カリフォルニア州リバーサイド・レースウェイ  
USRRC Mission Bell Trophy Race

2	S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4	
5	12	13	14	15	16	17	18
19	26	27	28				



ピート・ブロック (73) とボブ・ダンハム (51) の2台体制

日野自動車は、1966年、ピート・ブロック氏率いるBRE（ブロックレーシングエンタープライズ）と西海岸レース&車両開発の契約を結んだ。

早速、3月から競技に挑んだ。第二戦は5月1日のリバーサイド、エンジンブロー（上）で2台共にリタイア。

リバーサイド・インターナショナル・レースウェイの公式月刊誌に「日本の自動車産業はこのように競技することは正当な行動であろう」とレースの場に登場することを歓迎をもって取り上げられた。

# March & April - 2017

3

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



1966年5月、ウィロースプリングス・レースウェイ  
米国カリフォルニア州ロス郊外

4

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						



カリフォルニア州ロス郊外の砂漠地帯にあるウィロースプリングス・レースウェイを借り切り、コンテッサの車両開発テストとレースでの戦闘能力の開発を繰り返す。

大きな問題は油圧の低下だった。オイルクーラーをリヤからフロント下に移すなど実践的対策が進んだ。

上のモノクロの映像はオイルクーラーは未だ後部にあった。この映像をみると、正に遥か異国の砂漠の地、将来に向かって鋭い視線のコンテッサに何か哀愁を感じる。

# May & June - 2017

5

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6

S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3		
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	



(上) 1966年6月19日、米国ネバダ州ラスベガス  
(下) 1966年8月24日、米国ユタ州ソルトレークシティ



6月19日、ラスベガスのスターダスト・インターナショナル・レースウェイでのCSCC（カリフォルニア・スポーツカークラブ）ナショナルポイントレース。ピート車は3位、ボブ車はリタイヤだった。

8月24日、ソルトレークシティは、SCCAソルトレークシティ。ボブ車大破。戦闘力のアップに伴い、日増しに激しい戦いに。この日のレースは、応急処置を施したボブ車が3位、ピート車は4位。未だミニクーパーの後塵を拝していた。

# July & August - 2017

<b>7</b>	<b>S</b>	<b>M</b>	<b>T</b>	<b>W</b>	<b>T</b>	<b>F</b>	<b>S</b>
							2
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

<b>8</b>	<b>S</b>	<b>M</b>	<b>T</b>	<b>W</b>	<b>T</b>	<b>F</b>	<b>S</b>
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		



(上) 1966年9月18日、(下) 1966年8月14日  
共に米国カリフォルニア州リバーサイド・レースウェイでのクラッシュ



8月14日、リバーサイドでの6時間耐久レース。レース中盤で他車にヒットされ、転倒回転・大破。その後、修復をし、最終的にクラス・ウィナー。だが、2位の参加者の抗議（フロント・ガラス無しでの走行）を受け、優勝は消えた。地元紙はピートの果敢な戦いを讃えていた。ポブ車はリタイヤ。しかし、コンテッサの戦闘能力は日増しに高まって行った。

9月18日、リバーサイド・レースウェイでのトランザム・チャンピオンシップ・4時間セダンレース。ポブ車は総合2位のマスタングが撒き散らしたオイルが原因でこのように大破しリタイヤ（上）。ピート車は出場せず。

# September & October - 2017

9	S	M	T	W	T	F	S
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30



1966年10月30日、米国カリフォルニア州リバーサイド・レースウェイ  
第3回タイムズGP、センチネル・セダンカー・レース

10	S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				



ついにその瞬間がやって来た！レース中盤以降、ピート・ブロック車（上）は宿敵ミニと戦い、ロードホールディングの勝るコンテッサがミニをかまし、チェッカーフラグを受けた。

この勝利は米国での日本車初の快挙となった。

左はピート車の援護役を務め、4位となったボブ・ダンナム車。先の9月18日のリバーサイドで車はおしゃかになり、チームのショーカーであったクーペを急遽、競技用に仕立て上げた。カラーリングも新たものを試みた。

# November & December - 2017

11	S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	12
19	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30			

12	S	M	T	W	T	F	S
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	10
17	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	28	30	31



(上) 1967年1月15日、千葉県船橋サーキット全日本自動車クラブ対抗レース大会  
(下) 1967年3月 (推定) 米国カリフォルニア州ロスのエル・セグンド市のBRE



船橋サーキットでの全日本自動車クラブ対抗レース大会、西海岸レースで勝利を得たコンテッサは新春の国内レースでも勝利をもたらした。ドライバー：ボブ・ダンハム (上)。

左はロスのエル・セグンド市のBRE (ブロック・レーシング・エンタープライズ)、チーム サムライの1967年シーズンの体制。新たな戦略車両である軽量ボディのクーペ “L”が2台、先のタイムズGPで4位となったクーペ、そしてサポートカー：日野KM300。

# Continuing Proving Ground

(現物をもって後世に語り継ぐ - 日野コンテッサの挑戦、今も続く)



2016年2月24日 ビギナーズジムカーナ in 筑波 第一戦

曲がれる



2016年11月11日 ビギナーズジムカーナ in 筑波 最終戦

停止する



2016年4月24日 ビギナーズジムカーナ in 筑波 第二戦

流せる



2016年9月25日 ビギナーズジムカーナ in 筑波 第五戦



2016年7月20日 ビギナーズジムカーナ in 筑波 第三戦